

令和5年度の主な取り組み

令和5年度は「コロナに打ち克つ、輝く未来へ飛躍するえびな」をテーマに、子育て世帯を中心とした人口増による税収の底上げを図り好循環を生み出す、戦略的で積極的なまちづくりに取り組みました。

市役所周辺の一體的なまちづくりを推進する一方、近年急速に進展しているデジタル化に対応したスマホ市役所の実装や、スマート申請の拡充を実施するなど、ハードとソフトの両面から新たなまちづくりを進めました。



「SDGs」の各目標と関連する事業の分野にアイコンを併記しました。

充実して暮らせるまち



駐車場の舗装整備工事の実施

1億1400万円

文化会館・図書館・総合福祉会館の駐車場の舗装整備を行い、駐車場利用者環境を改善しました。



国際化事業の充実

190万円

市内在住の外国籍住民が安全・安心に生活できるまちを目指し、国際窓口の設置や外国籍住民を対象としたアンケート調査を行いました。

健やかに暮らせるまち



子ども医療費助成の対象年齢の拡大

4800万円

中学校卒業までとしていた保険診療分の医療費全額無償の対象年齢を拡大しました。

安全で安心して暮らせるまち



消防署南分署建替事業の推進

1億3300万円

将来にわたり「安全・安心なまち」を維持するため、老朽化した消防署南分署の移転・建て替え工事と監理委託を行いました。

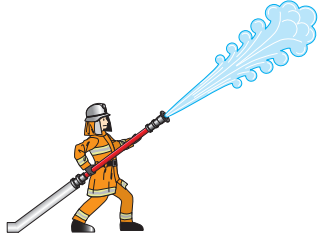


工事の様子(上)と建て替え後の南分署(下)

消火栓の整備

350万円

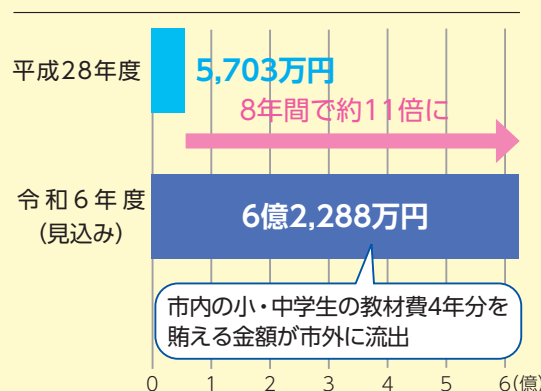
災害に強いまちづくりを推進するため、柏ヶ谷地区の住宅密集地域や大規模火災の危険がある地域に消火栓を設置しました。



市の税収とふるさと納税の現状

ふるさと納税は「生まれ育ったふるさとに貢献できる制度」「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる制度」として国が創設した寄付の制度です。在住自治体以外の自治体への寄付で、寄付額の一部が所得税および住民税から控除されるものですが、同時に在住する自治体の税収に影響を及ぼしていることも事実です。

ふるさと納税で海老名市から流出した金額の推移



かがやきを創造するまち



スマホ市役所の実装、スマート申請の拡充

3000万円

海老名市LINE公式アカウントをリニューアルし、LINE上で24時間365日手続きなどができるスマホ市役所を実装しました。

公共施設再編(適正化)計画の改定

280万円

パブリックコメントを取り入れ、市の将来推計と市民ニーズの整合性を図り、将来にわたる安

ゼロカーボンシティの推進

860万円

現時点の二酸化炭素排出量と2050年時点の排出量を推計し、ゼロカーボンシティ推進のために実施すべき取り組みの検討を行いました。

便利で快適に暮らせるまち



市役所周辺地区の一體的なまちづくりの推進

700万円

開発行為の促進、都市インフラの整備に関する協議や道路交通に関する検証などを将来を見据えながら行いました。

市道3号線道路災害防除事業の着手

3000万円

近年の記録的な大雨や土砂災害を受けて市内斜面地などの検証を行いました。結果に基づき、崩落などのおそれがある斜面地に安全対策工事を実施しました。



工事の様子

全・安心な公共施設の維持管理のため、計画を改定しました。

新たな発見ができるまち



魅力あるシティプロモーションの展開

120万円

市民などから募集した「海老名の魅力川柳」をデザインした割り箸袋を大型商業施設や飲食店へ配布し、市の認知度向上と郷土愛の醸成を図りました。また、市の魅力を市内外に発信するため、デジタルサイネージなども活用しました。



食の創造館別館(上)と調理室(下)

食の創造館別館完成と中学校完全給食に向けた準備

15億4000万円

中学校給食調理施設として食の創造館別館を建設しました。中学校完全給食に向け、食の創造館の予備能力を活用し、中学校給食を試行的に行いました。

ICTを活用した不登校児童生徒の学習支援

1300万円

不登校または不登校傾向の児童・生徒の学習機会保障のため、ICT学習ツールを活用したオンライン学習環境を整えました。別室登校支援員の配置日数などを拡大し、児童・生徒の心のケアの充実を図りました。

豊かな学びを育むまち

